

学番	56	県立八海高等学校
----	----	----------

令和5年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	知・徳・体の調和がとれた、個性、感性豊かな人間性を育み、志を持って主体的に学び続ける生徒を育成する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①基本的な生活習慣と基礎的学力の定着を図り、自己の課題解決に向けて、主体的に学ぶ力を育みます。 ②特色あるコースの学びにより、専門的な知識、技能を育みます。 ③他者の心情に共感する心を持ち、他者と協働して課題解決に取り組む力を育みます。 ④地域との連携した学びから、郷土への愛着や誇りを持った豊かな人間性を育みます。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①特色あるコースの教育課程、教育活動により、基礎学力と専門分野の知識・技能の定着を図ります。 ②学校行事及び探究学習を充実させ、他者と協働して課題を解決する学習に取り組めます。 ③ICTを利活用し、生徒の興味関心を引き出す「わかる授業」を実施します。 ④地域の施設や企業と連携し、地域理解や専門分野の理解を深める実習の充実を図ります。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～このような生徒を求めています～ ①本校の教育方針や特色あるコースの教育活動を理解し、自らの目標に向かい、主体的に活動することができる生徒 ②他者を尊重し、様々な課題解決に、協働して取り組むことができる生徒 ③学校や社会のルールやマナーを遵守し、自らを律する心と態度を持つ生徒 ④地域社会に興味関心を持ち、積極的にかかわろうとする生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>基本的な生活習慣が確立され、生徒が学業、部活動に落ち着いて取り組んでいる。今後は希望進路実現に向けて、個に応じた指導を充実する。また、スキー部、レスリング部、陸上競技部が全国大会や北信越大会で活躍する成果を上げた。</p> <p>課題としては、基礎学力の向上、学習習慣の定着、進路希望への挑戦と自発的な行動、ICTの常用的な活用、総合的な探究の時間における組織的な改善、八海高校教員の「勤務時間の上限にかかる方針」に基づいた時間外勤務の削減があげられる</p>	<p>○「豊かな人間性」の育成 ・生徒指導やボランティア活動等により規範意識や自己有用感を育む。 ・学校行事や部活動での協働をととして他者を敬愛する精神を養う。 ・いじめ見逃しのない、安全、安心な学校生活環境を提供する。</p> <p>○「確かな学力」の育成 ・ICT機器を有効利用するなどわかる授業を実践し、生徒の主体的な学びを支援する。 ・生徒一人ひとりの能力を引き出すとともに、進路実現のため丁寧な進路指導を行う。 ・「総合的な探究の時間」を通して全校生徒・地域・全教</p>	<p>生徒が主体的に取り組む学校行事や生徒会行事を実践し、互いを尊重した態度や行動を育成する。また、いじめを見逃さない環境整備に向け、生徒の悩み等に早急に対応するための定期的なアンケート調査の実施及び全教職員の組織的な対応を徹底する。</p> <p>部活動の推進、人権教育・同和教育の推進、ボランティア活動の奨励。教職員自ら模範を示すとともに、生徒の考えや声に寄り添い、学校全体で丁寧かつ継続した指導を徹底する。</p> <p>アクティブラーニング、学び合い、ユニバーサルデザインの視点を活かした「わかる授業」を実践するとともに、ICTを利活用し生徒の意欲喚起を図るとともに家庭学習を定着させる。また、スタディサポート等の結果を分析・検討し「高校生のための学びの基礎診断」による指導の工夫・充実を図る。体験学習を中心としたキャリア教育を充実させる。「総合的な探究の時間」において、各教科等で講座を作り、本校の特色を踏まえ、生徒の主体的な学びと探究的な学習の推進を図る。また、生徒一人一人</p>

	員が一体となった「チーム八海高校」を作り上げる。	の能力を引き出す丁寧な進路指導を実践する。		
	基礎体力と運動能力の向上を図り、自己管理能力を高める。	体力テストの実施、基礎体力の向上、部活動の活性化、健康管理指導の充実。		
	働き方改革の一層の推進のため、業務の精選及び授業改善を図り、生徒と向き合う時間を確保する。また、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の適正実施。 業務の精選、簡素化、効率化。 業務の組織的な対応の徹底。 定時登退庁に対する意識の徹底。 時間外勤務時間の削減。 		
重点目標	具体的目標	部署	具体的方策	評価
確かな学力の育成	生徒の主体的・協働的な学習を推進し、学習習慣の定着と基礎的事項の理解を確実にする。	教務部	・ICT教育環境の整備。	B
		1学年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的習慣の確立。 (2) 学習環境の整備。 (3) 学習習慣の定着と各種資格取得への挑戦。 (4) 進路についての「知る」を大切にする。 	B
		2学年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的習慣の確立。 (2) 学習環境の整備。 (3) 学習習慣の定着と各種資格取得への挑戦。 (4) 自分の進路「選ぶ」を積極的に進める。 	B
		3学年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「豊かな人間性」の育成。 (2) 「確かな学力」の育成。 (3) 決める・「進路実現の実践的な力」の養成。 	B
		進路指導部	・「高校生のための学びの基礎診断」を活用した指導の工夫・充実を図るため、スタディサポートの結果を分析し、学年に適切な情報を提供する。	B
		各科共通	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニング、学び合い、ユニバーサルデザインの視点を活かした授業改善。 ICT機器を活用した授業改善。 	B
		国語	・テンポ良い生徒とのやりとりの中で国語（現代文、古典）の楽しさを追求する。	B
		地理歴史 公民	・プリント、補助教材、視聴覚教材等を活用した分かりやすい授業の実践を図る。	B
		数学	・教え合うなどの学び合いを重視した授業を展開する。	B
		理科	・学び合いや実験などの学習活動を通じ、周りとの協力しながら学び、理解を深められる授業を実践する。	B
		外国語	・英語でのコミュニケーションの楽しさを示しながらICT機器を駆使した分かりやすい授業を展開する。	B
		福祉	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得や検定合格に向けた学習を通じ、福祉に関する知識 技術の習得を図る。 	B
		商業	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得や検定合格に向けた学習を通じ、商業に関する知識・技術の習得を図る。地域連携を推進する取り組みを行い、地域社会への理解を深める。 	B

進路希望への挑戦	大学・短大等上級学校への進路希望達成率の向上 ・進路に対する意識啓発	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学校見学、進路ガイダンス等による進路意識の啓発。 ・就職指導及び進路実現に向けたキャリア教育の充実。 ・全職員で小論文、面接指導を行うための研修と割り振り。 	A	A
	・進路情報提供の充実	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路のしるべ」の改訂、「進路通信」等の進路情報発刊。 ・各種模擬試験・適性テストの実施と結果の有効活用。 	A	
豊かな人間性を育成	・いじめのない望ましい人間関係の確立	人権教育、同和教育委員会	・生徒指導部、いじめ防止対策委員会、教育相談部と連携し人権意識と差別のない学校を目指す。	B	B
		いじめ防止対策委員会	・いじめアンケート等に基づくいじめの早期発見、早期対応。	A	
		生徒指導部	・SNS等、ネット利用についての指導の充実。	B	
		教育相談委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への教育相談・特別支援教育・等に関する情報提供。 ・UDLを用いた授業の展開を通じ、生徒の自己肯定感の育成・対人関係スキルの向上を図る。 ・SCとSSWの活用。 	B	
	福祉科	・相手の思いに沿った支援を学ぶ活動を通じ、他者への共感的理解を大切にする姿勢の育成。	B		
・学校行事、部活動の推進	生徒指導部	・学校行事、部活動の充実を図り、心身を鍛えて積極的に挑戦する意志を育成。	B		
生徒指導の充実	教職員の共通理解による指導	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーの向上と基本的生活習慣の定着。 ・清掃活動を通して、校内の美化に努める。 	B	B
	生徒の基本的生活習慣の確立	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・校内・校外における挨拶の励行。 ・スマホ・携帯電話使用マナーの指導強化。 	B	
総合的な探究の時間	全校職員、地域が一丸となって未来に向けた人材の育成を図る	全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒が自らを振り返り、生き方と在り方を改めて考える機会を設け、テーマに向けて探究的な活動ができるように指導する。 ・地域と一丸となり、探究活動ができるようにする。 	B	B
基礎体力と運動能力の向上	心身の健康に関心を持たせる。	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康管理を積極的に行う生徒の育成。 ・校内関係者や各組織、SSWと連携した健康相談の充実。 	B	A
	基礎体力や運動能力の向上を図る。	保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・個人種目の全国大会の入賞を目指した専門種目の充。 ・保健体育の教科による体力テストの実施。 	A	
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の適正化 ・業務の削減、簡素化、効率化 	全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・複数顧問制による部活業務の分担。 ・定時退庁日には17時45分までに完全退庁。 ・生徒と向き合う時間の確保。 	B	
成果	生徒の主体的・協働的な学びの推進にあたり、生徒のタブレット端末やその他のICT機器を常用的な活用を進め、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を効果的に実践することができた。また、進路指導における各種ガイダンスでの生徒への意識啓発、いじめの早期発見及び早期対応に向けた教育相談の方法やアンケート方法の改善においてもICTを積極的に利活用し、全職員で組織的に進めることができた。			総合評価	
				B	